〔千葉医学 61, 71～78, 1985〕

〔学会〕

第701回　千葉医学会整形外科例会

日　時：昭和58年12月10日
　　昭和58年12月11日
場　所：千葉大学医学部　大講義室
　　千葉大学医学部附属病院第1講堂

1.　脊髄誘発電位における平均加算波形と各原波形の比較検討

井合　洋，中川武夫，今井克己，
村上正純，出沢　明　　（千大）

ネコの脊髄誘発電位に関し，平均加算波形と各原波形の比較を行ない，さらに圧迫試験による変化を検討した。圧迫前では各原波形の振幅が，平均加算波形に比べ，大きい傾向があり，標準偏差は，平均値に対し7％以内，平均4.8％であった。すでに障害をうけている脊髄に於て，特に振幅が50％以下になっている場合には，単発刺激による各原波形では振幅の動揺性が大きくなる傾向が見られた。

2.　イオン性造影剤 Diatrizoate の経静脈注入にて Spinal jerk を起した脊髄静脈奇形の2例

井上高志，篠原　裕（千大）
鎌田　栄　　（同・放射線）

3.　仙椎部に発生した巨大悪性神経鞘腫の1例

篠原裕治，松井宣夫，北原　宏，
渡部恒夫　　（千大）
保高英二　（千葉ガンセンター）

症例は32歳女性，主訴は右臀部腫瘤，腰痛，歩行・排尿障害であり，X線で第5腰椎から仙骨にかけて広範な骨融解像を認めた。予め Embolization を行った後，前後方合併手術を施行，広範切除後ルーキーロッド及び自家骨移植にて脊柱の支持性を得た。摘出腫瘍の病理組織学的所見より悪性神経鞘腫と診断された。悪性神経鞘腫は局所再発の高い反面，遠隔転移発生が遅いが，化学療法放射線療法に抵抗性であり，根治切除手術が最も良い適応である。

4.　変形性膝関節症に対するエラスターゼ投与効果
―関節液ムコ多糖の変動について―

田中泰弘，松井宣夫，西山秀木（千大）
野平勲一　　（千葉県リハセンター）

5.　正常及び病的小児骨発育に関する MD 法による評価

藤川博正，後藤澄雄　　（千大）
飯島信行　　（飯島整形外科）
田中　正（国立千葉東・脊椎脊髄センター）

近年骨密度をX線を用いて数値で表わす方法として，microdensitometry（以下 MD 法と略す）の研究が行なわれている。

今回我々は，118例の発育期正常例と7例の骨疾患に測定を試み，その結果，MD 法は骨発育とその異常の観察に有用との印象を得た。

しかし，正常例で従来の報告とほぼ同様の結果を得たものの，骨髄幅 d の経過については，15歳付近よりむしろ低値傾向を示すという異なる結果を得た。この事に関し，動物実験において，組織学的に periosteal bone formation の終了する成長末期においてなお，end osteal bone formation が行なわれるのを観察しており，人においても同様の傾向を有するものと推察している。

6.　腰痛治療成績判定基準（第二次試案）を利用した腰痛疾患の評価について

林　輝彦，大木健資，雄賀多聡，
道永幸治　　（国立国府台）

腰痛疾患の治療成績を一定の判定基準のもとに評価することは，治療法の適否を判定する上に重要である。日整会，腰痛治療成績判定基準第2次試案を利用し，各種腰痛疾患に対し，判定基準を試みた。椎間板ヘルニア以外の腰痛疾患は，他覚所見の得点が高く，改善率としては小さくなる傾向を示した。本法は，椎間板ヘルニアの治療成績判定に最も有用である。